



# 布施だより

## 《一隅を照らす ～ 始業式から ～》

8日(木)の始業式では学校長から「感謝」と題しての講話がありました。(銀河祭での生徒諸君の目に見えない準備や後片付けに言及した後)・・・椅子を並べるという仕事も、展示幕をしまうという仕事も、本当に地味で目立たない仕事です。誰にも気づかれないこともある仕事です。それでも、自分の仕事に意味を見だし、こんなにも誠実に取り組んでくれたことに、私は頭が下がる思いになります。

「一隅を照らす(いちぐうをてらす)」という言葉があります。この言葉の意味は「自分が置かれた立場や役割に対して、誠実に精一杯を尽くし、人のために尽くすこと」という意味です。一隅という言葉自体の意味は「片すみ」とか「一方のすみ」という意味ですが、ここでは、自分が置かれた立場や役割をさしています。「一隅を照らす」とは、どんな立場や役割であっても、そこで精一杯を尽くし、その場を照らす存在になることです。

椅子を並べてくれた仲間も、展示幕を整然と片付けてくれた仲間も、まさに、一隅を照らしてくれました。私たちの日々の生活は、こうした一隅を照らしてくれる存在があってこそ明るく光り輝くものになります。

2学期末に、3年生のこんな生活記録がありました。

～今日はトイレ掃除にAさんが来ていました。バケツの水を捨てる場所の掃除をしてくれました。Aさんが、すごく時間をかけて一生懸命やっているのを見て、私も今日は雑巾がけをすみずみまで力をいれてやろうと思って、いつもは気がつかないところの汚れも何度も雑巾をかけました。すごく腕が痛くなったけど、自分の心まできれいになっていくような感じがしたし、15分じゃ足りないくらいでした。～

このAさんも、そしてその様子を生活記録に書いてくれた人も一隅を照らす存在です。Aさんの放つ光は、この生活記録を書いた人を明るく照らし、生活記録を書いた人自身も光を放っています。3学期はこうした一隅を照らす光で学校中が光り輝く学校に、皆さんと一緒にしていきたいと思えます。どんなささいなことでも、自分の目の前にある、自分の役割や立場で、精一杯を尽くすこと、このことを大切にしてください。こうしたことが、必ず「感謝の3学期」につながります。

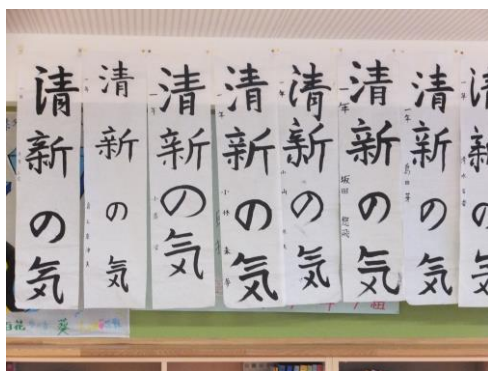
3月19日、49回目の「さよなら」は、学校中が一隅を照らす「光と感謝の気持ちに満ちあふれた」そんな「さよなら」に、みんなでしていきましょう。

・・・篠ノ井西中学校の3学期49日間でスタートしました。今年もよろしく願いいたします。

## 《新年度に向けて～「よりよい学校づくりのために」先生方の検討会議～》

年末、年始にかけて私たち教職員はこの1年間を振り返り、来る新年度の学校運営・教育課程編成に向けて話し合いを重ねています。生徒アンケート・保護者アンケート「より良い学校を目指し、連携と協力を生み出すために」の結果や教職員自身の振り返りをもとに、検討課題と検討内容を7つに絞り、く ①「学力向上」に関して ②「人間関係作り(生徒支援)」に関して ③「生徒会活動」に関して ④「人権感覚の育成」に関して ⑤「校内研修の充実」に関して ⑥「子どもと向き合う時間の確保に向けた業務見直し」に関して ⑦「校舎内外の整備」に関して 現状や課題を探りつつ、新年度に向けて可能性を語る検討会になります。

いくつかの検討グループについて紹介いたします。



#### ①「学力向上」に関して

「チャイムスタート」「聴く」を学習習慣作りの確立に据えて1年間、生徒とともに追究を重ねてきました。先生方の授業の振り返りには「落ち着いた雰囲気が出てきました。そうすると学習意欲がぐんと伸びました。」「チャイムスタートが意識づけられ、各学年で定着させようとする活動があり、全校で授業のスタートが気持ちよく切られました。」「授業開始がスムーズに入り、導入場面で話を聴く生徒、積極的に発言する生徒が増えました。」といった成果が聞かれています。また研究係が中心となって発行してきた「学習通信」により、仲間の追究の様子が生徒間に浸透し、学習方法や家庭学習への意識付けが高まった様子が様々な場面で伝えられてきています。



新年度はこれらの成果の上に立って、言語活動を充実させた「活用型学力」の向上を柱に授業改善を考えていきます。追究の場面で仲間同士が話し合い、根拠を出し合い、解決法を検討しあう学習場面を取り入れたりすることで、より確かな学力につなげていきたいと願っています。教科会、学年会を横断的に連携し、授業改善と家庭学習への取り組みを図ります。

#### ④「生徒会活動」に関して

日々の節度ある生活には生徒会活動が欠かせません。現在、自主・自律的な活動を生徒会諸君が行ってくれているため、篠ノ井西中学校では目を瞞る成果が出ています。(例えば・・・集会時の入退場の整然とした姿勢、顔を挙げて聞く姿勢。毎朝、玄関や廊下を清掃してくれるボランティアスピリット・・・等々)さらに、生徒たちの考えがやりとりされる場面を工夫することで、互いを理解し、尊重し合える雰囲気を醸し出そうと願っています。

組織マネジメントの「P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)」サイクルを念頭に置きながらの検討会です。・・・付箋にアイデアを書き、模造紙に張り出し、同僚の先生の声に耳を傾けながら、今年度の成果と課題を出し合い、新年度 生徒との出会いに心ワクワクさせながらのひと時にもなっているのです。春の新年度スタート時には、学校グランドデザインに具体的教育活動を提案し、反映できるよう、教職員ひとりひとりがアイデアを出しながら取り組んでいます。

### 《 『寒いから気をつけて』 ～ 一通のお礼状から ～ 》

雪年末に地域の方より、心ホッコリの嬉しいお便りをいただきました。ご紹介いたします。

信里に住む者です。この13日(土)雪の降りしきる夕方6時頃、道路を軽自動車で行き中、迂闊にもブロック塀に併設したU字溝へ車の前後の両輪を落としてしまいました。人通りの少ない暗闇の寒空、なすすべもなく、ただオロオロしていました。そこへ通りかかったのが貴校の男子生徒さんでした。事情を話すと「寒いから気をつけて」と私を励ましてくれてから、直ちに母親を呼んでくれました。親御さんは電話のない私に代わり、車を引き上げるためにあちこち手配をしてくれました。しかし土曜の夜、雪模様の中では、レッカー車がすぐ間に合うはずがありません。そこで近所の人を呼んでいただき、無事車を引き上げることができました。二人の親子の連携と所作にただ感心するだけで感謝の気持ちを充分伝えられず別れた次第でした。77年生きてきた私にとって今夜程人の心の暖かさ、有り難さを感じたことはありませんでした。彼のような中学生を育てていただいている篠ノ井西中学校に御礼の気持ちをお伝えしたいと考え、年末年始ご多用の折、失礼を承知の上、お便りした次第です。大変ありがとうございました。



若い人の心根がグンと伸びる瞬間というのは、このお手紙の中にあるように、周囲の困っている方に優しさを差し出せた時であり、そしてその差し出した優しさを認められた時なのでしょうね。私たち大人の大切な務めのひとつに、伸びようとしている若者の感性や所作やおずおずと差し出してくれた暖かな心持ちに、「ありがとう。よくやってくれた!」と感謝を返してやる必要があります。それは若者の言動をただ批判することよりも数倍の力をもっているはずで、私たち大人の一言・一言が、若者のしなやかで柔軟な優しさを伸ばす魔法の言葉です